

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|------------------------------|
| 施設名 | 樹保育園 |
| 法人名 | NPO 法人すぎなみ子育てひろば chouchou |
| 法人所在地 | 杉並区上荻 3-26-14 ドミトリー上荻 II 201 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の探求（楽器に触れるなかで鳴らし方、表現の仕方を知り、身近な音を表現してみる）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）楽器を触ること、楽器で表現することを経験していない子が多かった為、まずは楽器に触れること、扱い方を知ることがテーマに組み込んだ。

学年が上のクラスが合奏をする姿を見ていたこともあり、楽器への興味はとても強かった。

2. 活動スケジュール

第1回 11/20（木） 10:15～11:15

第2回 12/26（火） 10:15～11:15

第3回 12/27（水） 10:15～11:15

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）楽器（カスタネット×6、クラバス、柄付きカスタネット、タンブリン（大）、タンブリン

（小）、バードコール、フィンガーシンバル×4、メタルカバサ、エッグシェイカー、ウッドシェイカー×2、ウッドマラカス、トライアングル、鈴、エナジーチャイム、ウッドブロック、ウッドアゴゴ、ギロ）

自由に楽器を触れるように、床に布を敷いてその上に楽器を並べた。また 12 人を 6 人ずつに分けて保育士も一緒に音を探求することで、自分の感じたことを伝え合うことができるように促した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①自由に楽器を触って鳴らしてみる。鳴らし方が分からず試行錯誤する姿を見守る。その後楽器の名前や鳴らし方を知らせて再度自由に鳴らしてみる。子どもたちが楽器を鳴らす中で保育士が「あんでんぼうのサンタクロース」や「おもちゃのチャチャチャ」「チューリップ」などの歌を歌う。
- ②楽器の音がどんなふうに聞こえるかをみんなで考えて共有し合う。
- ③水の流れる音、掃除機の音、カーテンを開け閉めする音、ドアを開け閉めする音など身近な音を聞く。それぞれ聞いた音を表現するにはどの楽器がいいか選んでもらい、鳴らして表現する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ①はじめは「どうやって使うの?」「これは知ってるよ!」「この音綺麗だね」「うわ、これうるさいよ」など楽器を鳴らしながらどん感じたかを話していた。自由に鳴らしていいと伝えると、タンブリンをクラバスやマレットで叩こうとする姿があった。壊れてしまうことを伝え、楽器の鳴らし方を伝える際に楽器ごとのペア(アゴゴとマレットなど)を知らせ、楽器同士を組み合わせないよう伝えた。保育士の歌に合わせて楽器を鳴らし、「チャチャチャ」「シャランラン」など歌詞の音にあった楽器を自分で選んで持ち替える姿があった。
- ②同じ楽器でも「リーン」「チーン」「シャーン」などそれぞれ聞こえ方や感じ方が違うようで、6人から違う意見が出た。自分とは違う表現に対して「確かに聞こえる!」「もう1回鳴らしてみよう」「(自分と相手の音の表現に対して)なんか似てるね」と反応し、いろいろな聞こえ方も楽しむ姿があった。
- ③楽器の鳴らし方、扱い方にも慣れてきたので身近な音をみんなで表現してみた。同じ音でも前回同様それぞれが違う楽器を持ってきて水の流れる音、掃除機の音などに合わせて鳴らしていた。音の近くに来て楽器を鳴らし、「これはなんか違う」「こっちかな」「決まった!これにする!」と話したり、「もう1回カーテンしゃーってして!」と音を何度も聞いて、真剣に楽器を選んでいった。楽器が決まったところでそれぞれに音を表現してもらい、「どんな音?」と保育士が尋ね、子ども達は自分の楽器が何の音を奏でているのか答えていた。



<振り返りによって得た先生の気づき>

大人の中では固定化されている水の音、カーテンの音などの擬音が子どもたちにとっては違う音に聞こえておりそこからさまざまな表現が出てくることに驚いた。活動をしていく中で、保育士が「トントン」「カンカン」など擬音を口にしてしまうと、子どもたちも同じ表現をしてしまい、発見の機会が潰れてしまうと気づき、活動の中でふいに口にしてしまわないように注意した。子どもたちの表現の自由さを改めて感じた。